

平成 28 年度学校関係者評価 評価表

I. 重点目標について

1. 重点目標

- ・平成 28 年度の重点的目標と計画 3 点のうち、①の「国家試験対策の強化」については休日においても模擬試験を実施し努力しており、北海道・東北の専門学校での合格率においても結果がでている。②の「学生募集活動の強化」については、少子化の中検討はしているが、定員の確保に向けてさらなる広報活動のためにも、国家試験合格率のアップを目指してもらいたい。③の「既卒国家試験受験希望者への支援強化」については、結果が出なかったことを踏まえて、既卒者のモチベーション持続のためにも、何らかの方策が必要ではないか。
- ・質の高い柔道整復師の育て上げている学校ですので、他校と違いを入学率に繋げ、さらに募集活動を強化していく事が必要と考えます・
- ・伝統校であるため、今後も高い合格率の継続とともに、既卒者の合格率が各専門学校低いため、その対応の強化が必要であると思います。
- ・学生募集活動に関しては更なる拡大が必要だと思う。同時に柔道整復師という資格について、まだまだ世間一般に認知されていないため、その普及活動にもご尽力いただきたい。
- ・既卒者の国家試験合格率が著しく低いため、対応が必要と思われるが、既卒者自身のモチベーションや受験動機などの再確認が必要と思われます。

II. 各評価項目について

1. 教育理念

- ・学校の教育理念はこれまでの学校の歴史が語るとおり、大いに評価できる。今後もこの教育理念のもと、社会で活躍できる人材を輩出してほしい。
- ・基本の柔道精神がしっかりと唱えられたものとなっている。
- ・社会経済のニーズを踏まえた方向付けを引き続き強化していただきたい。
- ・社会に貢献できる品格高い学校ならではの、理念に基づいた柔道整復師の育成に期待します。
- ・伝統校としての教育理念や人材育成は、すばらしい卒業生を世に送り出し、卒業生も地域貢献など活躍しているので、今後も継続していただきたい。一方で昼間部の生徒など中高の教育で、上下関係の希薄化等があり、目上の方・教職員の方々などに対する接し方が悪化しているように感じる。本来はその機能を専門学校が請け負う必要は無いかもしれないが、社会に出た際、「柔専の学生はしっかりしている」といわれるよう、教育理念の徹底も一部には必要と思われる。

2. 学校運営

- ・借入金もなく学校運営を行っており、概ね良好と思われる。しかしながら、単年度での経常収支差額はマイナスとなっていることから定員確保に向けた何らかの取り組みが必要であると思う。
- ・教育においてしっかりとした方針がなされている。
- ・財務情報公開の体制はできており、安定しているといえる。
- ・近年の少子化により定員充足率は低下しているが、学生募集活動の強化など、さらに向上を目指していただきたい。
- ・情報システム化による業務効率化は必要と思われます。学生への休校連絡なども今後情報化するとのよいのでは。

3. 教育活動

- ・学生による授業評価アンケートによると、概ね評価が高く良好である。しかしながら、教科と学年においては評価にばらつきが見られる。特に非専任教員の授業の評価が低いため、非専任の教員にはこの評価表を見ていただき、できる限り改善を図ってもらう必要があると思う。また、今後カリキュラムが改正になり、習得単位数が増えて学校側も大変な状況になるが、この機をプラスに変えての授業改善の取り組みが必要であると思う。
- ・教育課程の方針はしっかりとしており、学科等のカリキュラムの編成に反映されている。
- ・国家資格合格の目標に向けた指導はしっかりとなされ、教員の確保、能力開発研修は行われている。
- ・企業施設業界団体等との連携を取り、実践的な職業教育、産学連携の取り組みにも期待します。
- ・平成30年度のカリキュラム改正に向けての対応と、国家試験への出題などへの対応を引き続きお願いしたい。
- ・卒業後を見据えての指導と国家試験対応のための指導で、各先生の指導が異なる事があったため、統一を図っていただきたい。
- ・実践的な職業教育、産学連携、接骨院の見学実習などはすばらしい取り組みだと思うので、今後も継続していただきたい。
- ・学生によってはスポーツ関係（アスレティックトレーナーやコンディショニングトレーナー）を卒業後希望する学生もいるので、早い時期からそのような情報の提供があると良いのでは。

4. 学習成果

- ・重点項目でも述べたが、休日や課外においても模擬試験を実施しており、北海道・東北の専門学校での国家試験での合格率においても結果がでており、一定の学習成果はあげていると思う。しかしながら、留年者や退学者が多くなっている現状、早急に打開策としての学習方法を構築することが必要であると思う。
- ・学校も増え少子化も進む中、資格取得の水準を維持し、就職率の向上もなされており、学校の前向きな取り組みが反映されている。
- ・学力低下による退学率の低減が問題である。
- ・国家資格に向けて本人のしっかりとした目標が立てられるような更なる指導が必要である。
- ・魅力のある柔道整復師になるべく、方向性を伝えられる病院・接骨院・関連企業などと連携を取っていただきたい。

- ・資格取得率や就職率は高い水準を維持しているため、良いと思う。
- ・退学率は、学生自身のモチベーションの低さやイメージしていた勉強内容とのギャップなどいろいろな要因があると思う。一定数の退学は想定されるが、学習の遅れなどは早い段階からフォローする事でカバーできるのではないか。
- ・在校生の学校外での活動（接骨院でのインターン、スポーツ現場のトレーナー）などに対する理解があると良いと思う。在学中トレーナー活動をし、試合帯同で学校を休む際も、公欠扱いにしていたらと卒業後の進路にも有利かと思われま。

5. 学生支援

- ・色々な奨学生制度や、学納金の分納制度など時代にあった制度構築が行われており評価できる。
- ・進路、就職は勿論、学習意欲にも繋がる個人的な相談などもしっかりと体制が整備されており、非常によい評価をしたい。
- ・奨学金制度や、夜間部の専門実践教育訓練給付金など充実しており、良いと思う。
- ・夜間部は仕事をしながら通学できるとあるが、接骨院の場合 5 時以降が混雑するため、実際は厳しいように感じられる。
- ・現実には厳しいと思うが、昼間部での専門実践教育訓練給付金や接骨院でのインターンができる環境があるとなお良いと思う。
- ・近隣の中学校や高等学校との連携で、部活動でのトレーナー活動ができるシステムがあると良いと思う。

6. 教育環境

- ・概ね新しい施設で学習できる環境にある。但し、委員会での質問事項に黒板が見えにくい箇所があるとのことなので、早急に確認し対策を講じていただきたい。
- ・平成 25 年完成の新校舎において、施設設備の整備は問題ないと思われる。
- ・防災に対する体制は、将来学生個人の柔道整復師としての人と関わりのにも繋がる事と思うので、避難訓練等強化していただきたい。
- ・新校舎が完成し良い環境ではあるが、在学中に教室の窓際の明かりが暗い、ホワイトボードの文字が見えにくいことがあったので、対応していただきたい。

7. 学生の受け入れ募集

- ・ホームページによる募集広報は、少ない予算の中で大変よくできていると感心する。しかしながら、定員の充足率をあげるためのより良い募集広報を模索し、実施願いたい。特に、委員会でも出たようにポスターは字を大きくし、掲示をお願いした接骨院の老年者にも読めるようなものを作成するなど、既成概念にとらわれないことも必要と感じる。また、ホームページにおいては、情報発信という観点からもオープンキャンパスが終わって、「このように行われました」という情報も発信することが次年度の募集にもつながると思う。
- ・学生募集活動は適性であるが、夜間部入学者の減少が入学者低下の割合の多くを占めている。夜間部入学者は仕事の再挑戦を求めて入学する人がほとんどだと思われるので、OB の方々の活躍の紹介など具体的な目標を見つけられる方法を打ち出していきたい。

- ・少子化の影響もあり、学生数確保は難しいと思われる。近隣の中・高校の部活動のトレーナー派遣を行い、柔道整復師という仕事の周知を図るのも良いのでは。現在の高校生の進路決めは自主性が無く、何となく決めていく生徒も多く、ただのあこがれなどからトレーナーを目指す生徒も多い。そのため、柔道整復師という資格と同時に、接骨院などの仕事やトレーナーなどのスポーツ分野等、幅広い視点での情報提供が必要と思われます。
- ・SNS を活用し、OB の活躍や授業風景など、外部への情報提供も良いのでは。
- ・OB 活動では、主に整形外科勤務の記事が取りあげられている事が多いように思われる。これでは本来の接骨院勤務を希望する生徒の減少に拍車をかけているように思われる。各分野での幅広い紹介をした方がよいのではないか。
- ・夜間部でのメリットや、仕事との兼ね合いをアピールすると良いのではないか。また、卒業生が多いので、就職に有利であるなど、伝統校の強みを打ち出した方がよい。
- ・卒業生の柔道整復師の先生を対象に、治療法などの講座（勉強会）を行い、再度専門学校に足を運ぶ機会を作るのも良いのではないか。
- ・伝統校であり、柔道整復に特化した学校だが、福祉系の資格やトレーナー系の資格を希望する学生へのサポートがあると更なるアピールとなるのではないか。

8. 財務

- ・平成 28 年度は、経常収支差額においてマイナスとなっている。また、有価証券を取崩し（国債の償還他）ており資産の減少が見られた。総資産では余力があるように伺えるが、定員の充足率を上げ、単年度においても黒字経営が望まれる。
- ・体制、整備は妥当であり、安定していると思われる。
- ・近年はどこの専門学校も厳しい状況であるが、伝統校であり、安定した財務と思われる。
- ・教育活動や学生支援のさらなる改良と学生の受け入れ募集で更なる安定化が図れると思われる。

9. 法令等の遵守

- ・文書管理等の諸規程は整備されており、概ね適切であるが、個人情報の業者との取り交わしや消防法での防火訓練の内容などについて確認し実施が必要であると思う。
- ・訂正な運営がなされているが、引き続き規定等の整備を強化していただきたい。
- ・近年の情報化社会に伴うネットリテラシーの再確認と学生達への注意喚起が必要である。

10. 社会貢献・地域貢献

- ・概ね適切と思われるが、委員会でも案が出されたように、ハーフマラソンでの救護の手伝い、各地区の祭りでの救護の手伝いなど、社会貢献や地域貢献において、仙台接骨医療専門学校でしか行えないような取組みを検討すべきではないか。
- ・柔道教室、道場開放などは、地域の幼稚園児、小学生などが非常に興味を持ちやすく、魅力のあるものと思われる。学校の知名度を今まで以上に認知していただくことで、子どもたちの目標にも繋がり、地域貢献になると思われる。
- ・柔道教室などを行い、礼儀作法の指導などを行う事で社会貢献・地域貢献となっていると思われる。

- 在学中近隣高校でトレーナー活動を行っていたが、そのような活動に対しての理解と、学校としてのサポートがあると、地域貢献に繋がるのでは。また、地域の中・高校などの部活に、信用のおける学生等を派遣して、スポーツの指導を行うと同時に簡単なテーピングなどの勉強ができる機会があると良いのでは。
- 現在、高校ラグビーや障害者スポーツ、ブラインドサッカー、フットサルのFリーグなどに関わりがあるが、どの競技もお金はないがサポーターは必要としている。会場の設営や練習の補助、トレーナー活動をしてくれると有り難い。学校独自で各主催者と連絡を取り、トレーナー活動は本格的にできなくとも、ボランティアという形で関わりが持てると学生には良い刺激になると思われる。